

クラス	Q311	担当教員	吉原 智恵子
テーマ	人間関係に関する諸問題		
著書・論文 研究課題等	<p>〈著書〉「現代社会を社会心理学で読む」ナカニシヤ出版（2009）永田良昭・飛田操（編）（第4章 認知的な矛盾の統合における他者との関係の意義 p. 49-64），「自己心理学 社会心理学へのアプローチ」金子書房（2008）下斗米淳（編）（第7章 社会的文脈における自己概念の変容と動機づけ p. 123-133）</p> <p>〈論文〉「友人関係の進展過程におけるパーソナリティの類似性認知および一致・不一致事象の変化について」日本福祉大学研究紀要 現代と文化 130,45-61.（2014）他</p> <p>〈研究課題〉社会的文脈における認知の変容過程に関する研究，他</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：対人関係，社会的行動，集団			
<p>[目的、内容、方法]</p> <p>人間関係にかかわる諸問題を研究テーマとしてとりあげ，3年次は卒業研究の研究計画立案まで行うことを学習目標とする。可能な人は予備調査あるいは予備実験を実施する。4年次には全員が本調査・本実験によるデータ収集を行い，卒業論文を完成させる。また授業はプレゼンテーションやディスカッションを基本とし，レジュメの作成法やプレゼンテーション技術を磨き，説明力をアップさせることを目指す。研究活動とその他さまざまなゼミ活動の全過程を通して，研究テーマの追究のみならず社会人となる基礎をも養っていく。</p> <p>[授業の進行プラン]</p> <p>3年次前期に全員で社会心理学のテキストを読んで内容を発表しあい，議論することを通して基礎的な知識を養う。後期は各自が卒業研究のテーマを設定するための関連論文を選定し，その内容を発表する。その上で全体討論を行い，研究計画立案の土台を築き，研究計画を完成させる。可能な人は予備調査や予備実験，あるいは第一研究となるデータ収集を行う。4年次前期は個々の計画に基づく調査・実験等によるデータ収集を行い，後期はデータ解析および結果・考察のまとめと卒業論文の執筆を行う。</p> <p>[これまでの卒業研究の主なキーワード]</p> <p>母子関係，父子関係，友人関係，教師と生徒の関係，いじめ，孤独感，自尊感情，コミュニケーション，ソーシャル・サポート，ストレス・コーピング，障碍，育児，リーダーシップ，ジェンダー，対人距離，流行，自己開示，自己愛，同調行動等（過去の卒業研究テーマリストを閲覧したい人は申し出てください。）。調査，実験，面接，観察等によるデータ収集に基づく研究を原則とする。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>原則としてデータ収集に基づく実証的な研究論文を作成する。そのため「心理学統計法」，「心理データ処理演習」，「多変量解析」等の授業を履修していることが望ましい。数年後には社会人になることを意識して，ゼミ活動は主体的，積極的に取り組んでほしい。またダメ出しにもめげない「打たれ強さ」を期待する。これは卒業研究遂行過程で（もちろん人生においても）求められることである。</p>			